



配偶者ノ有無ニ關スル統計調査

財部, 靜治

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 19(6):955-968

(Issue Date)

1915-12

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052449>



配偶者ノ有無ニ關スル統計調査

京都法科大學教授

財 部 靜 治

一、人口ノ研究上本領トシテ問フベキハ人ノ生死往來ニ關スル數ニアリ人々新陳代謝シテ常住不斷ニ人口現象ノ上ニ顯ハル、更新作用ノ學理ヲ究ムルハ主眼ナリ從ヒテ其研究上第一ニ妻夫暮シニ着眼シ人類ノ維持竝ニ其増減ニ關スル學理ヲ釋ヌベキナリ人口論ニ於テ民衆ノ男女別ヲ說クモ其年齡別ヲ究ムルモ共ニ當該諸狀況ガ男女ノ共同生活ニ如何ナル意義ヲ有スルカトノ觀點ヨリ之ヲ究ムベキナリ而モ亦直入シテ右共同生活ヲ究ムルガタメニ起サル、問題ハ外人ノ所謂「私ノ身分」[Etat civil, Civilstand]又ハ「親族上ノ身分」[Familienstand]又ハ「婚緣關係」[Conjugal condition]如何ニアリ。本邦ニ於テ人ノ身分ト言フ場合普通ニ「人ノ身ノ分際」ヲ指シ「貴賤貧富ノ位」ヲ意味シ戶籍法ニ於テモ亦親族關係ヲ示スタメニハ「續柄」ノ文字ヲ用井「身分」ノ文字ニハ一層汎博ナル意義ヲ付與セシム(同法第一八條)從ヒテ又本邦統計上ニ於テモ假令巴甲斐國現在人別調ニアリテハ「身上ノ有様」ト言ヒ近年ニ至リテ一地方又ハ諸都市ニ於テ行ハレシ人口實查ニアリテハ「婚姻緣組關係」(東京市勢調査)又ハ「緣事上ノ身分」(熊本市職業調査、臺灣臨時戶口調査)ト言フカ如キ文字ヲ用井テ右ノ問題ニ答フベキ調査ヲ遂ゲタリ慣行調査方法ニヨレル普通人口統計ニアリテハ其靜態動態ノ報告上「配偶關係」「配偶上ノ身

分」等ノ文字ヲ用フ。吾人が本編ニ於テ人ノ婚姻縁組關係ニ關スル統計ヲ究メントシテ汎博ニ配偶者ノ有無ト題セルハ是等ノ事情ニ鑑ミタルガタメナリト雖モ苟クモ以上說キタル點ニ注意ヲ拂フ限り人口統計上簡單ニ人ノ身分ト言ヒツ、私的生活上親族關係上ノ身分ヲ指スモノトシテ使用スルモ差支ナカルベシ、茲ニ尙注意スベキハ本邦統計年鑑中出産ニ關聯シテ「身分別」ノ文字ヲ使用セルコトナリ此用例タル獨逸ニ於テモ行ハル、所タリ之ガ研究ハ社會ヒ又經濟上重大ノ意義アリ又之ガ計數ハ人口身分別ニ關スル靜態調査ノ不備ヲ補ヒ又ハ之ト相俟ナテ其實用ヲ多カラシムルノ關係アリト雖モ所出ノ身分如何ニヨリ其類ヲ分チ普通ニ又動態現象トシテ之ヲ調査スルノミナルニヨリ本編ニ於テハ之ヲ問ハズ。

二、性及年齡ハ人ノ生理的特徵ニ屬シ各個人ハ此點ニ付天ノ授クルモノヲ受クルノ外ナキモ身分ノ別ニツキテハ生理上ノ基礎以外ニ人々固有ノ意志重大ノ作用ヲ及ボスベク從ヒテ又之ガ研究ニツキテハ社會上道德上ノ諸元素ヲ商量スベク純然タル人口論竝ニ社會狀態研究ノ材料トシテ利用シ得ベキノミナラズ社會道德ノ研究材料トシテ有用ナルベシ以下吾人ノ問ハントスル所ハ身分別ニ關スル計數材料ニツキ專ラ第一ノ見地ヨリセル利用性ヲ明カニスルニアリ而モ亦本邦人口現象ノ研究ニ付イテ其性質ヲ明カナラシメントスルニ非ズカ、ル研究ニ就クノ前提トシテ一般的ニ其性質ヲ敍說セントスルニアリ。

三、敍說ノ初メニ當リ先ヅ注意スベキハ身分別計數材料ヲ收ムルタメニ基本觀察上問ハルベキ人ノ社會的特質ハ必ズシモ情交ノ事實關係ニヨリテ決セラレズ

シテ婚姻法上ノ有配偶無配偶關係ニヨリテ定マルコトナリ此事情ニ基ヅキ身分別ノ統計的研究上如何ナル困難ヲ伴フベキカハ次イデ議スベキコトナルガ茲ニ先ヅ身分別計數材料ニ認ムベキハ婚姻法規ニヨリ特定人口靜態ニ及ボス實際ノ結果ヲ伺ハシムベキ獨立研究材料トシテノ效用ナリ蓋シ有配偶無配偶ノ關係ハ一二婚姻適齡ニアル男女ノ個人的及社會的決心ニヨリ左右サルベク此決心ノ組合セハ元來結婚特ニ夫婦婚姻年齡ノ數量觀察ニヨリ推究シ得ベキモ是等決心ノ歷史的形態ト人口動態現象ノ一般經過トノ共同作用ニヨリ全人口ノ靜態上瞬間狀態トシテ示サル、事相ノ統計ハ畢竟身分別計數材料ニ外ナラザレバナリサレド又カ、ル材料ハ統計上進ミテ詳別研究ヲ遂グル際比較ノ基本材料タラシメ得ベキ程度ニ於テモ有益ナリ犯罪人自殺者ノ身分別ヲ究メントスル際當ニ是等ノ分子ニツキテ身分別ヲ問フノミナラズ全人口ニツキテモ此類別ヲ問フノ實用多キヲ見テ知ルベシ。

四、臺灣臨時戶口調查所帶票記入心得第二ノ六ニ曰ク「緣事上ノ身分ハ未婚者、配偶者、^{ヤモヲヤモメ}鰥寡及離婚者ニ區別ス（臺灣統計協會雜誌第二一四號參照）ト人毎ニ此五區別ヲ問ヒテ得

タル報告ト其報告ニ基ヅキテ分タルベキ人口類別トヲ以テ人口ノ靜態及動態調査上共ニ身分別ト稱スルハ由來海外統計學者ノ間ニ於テモ弘ク行ハル、解釋タリ現時ニ至リテモ尙多クハ右ノ觀念ヲ踏襲スト雖モ熟々考フルニ此分類格式ハ實ハ此研究範圍ニ於テ間フベキ諸生活形態ヲ包容シ盡サルヲ見ル特ニ耶蘇教文明ヲ奉ゼル諸國ニ於テ宗教ノ制裁弛張シ男女間ノ道德紊ル、ニ從ヒ又是等ノ白人ガ其統計的研究ヲ白人自體ニツキテ施スノミナラズ世界各部ニ於テ他ノ信仰迷信ヲ奉ジ他ノ風俗ニヨレル諸民族ニ之ヲ及ボスコト愈々多キニ從ヒ又本邦ノ如ク特殊ノ文明開化ヲ遂ゲ不羈獨立ヲ完フセル大國民ガ自ラ統計家トナルコト愈々多キニ從ヒ其弊ヲ曝露スルコト愈々甚シキノ觀アリ。

從前ニアリテハ一夫一婦制行ハル、諸國ニ於テノミ身分別統計ハ備ハレリ且又有配偶者(吳氏譯統計學論二六八頁以下ニハ在婚者ノ文字ヲ用フ既婚者トイフニ勝ルガ如キモ不穩當ノ嫌アルガ如シ)ト呼バレ得ベキハ一人ノ妻ヲ有セル者ニ限ラレ餘又ハ離婚セル男ハ全ク妻ヲ有セザリキ然ルニ社會ノ變遷ニヨリ此事實ノ真相ヲ疑ハシムベキ事實起レルト共ニ一夫多妻否論理的ニ人ノ唱フルガ如ク一夫多婦 Polygynie 行ハル、地域ニアリ

テハ人ハ間々同時ニ鰥寡離婚及ビ有配偶タルヲ得又其組合セモ區々タリ得ベキ
コトヲ知レリ同様ニ又統計ハ從前ニアリテハ有配偶又ハ鰥寡タラザル者ハ何レ
モ未婚タリト假定シ其中間ノ事實視スベキモノヲ問ハザリキ今此點ヲ論究スル
タメ少シク身分別ノ基本觀察ニツキ察スルニ身分ニ關スル各個人ノ特質ハ婚姻
法及之ニ附屬セル身分登記ノ制ニヨリ公ケニ認メラル、ノミナラズ一般ニ其年
齡別ヨリモ世ニ知ラレ易シ（現ニ本邦現行人口統計ノ下ニテモ生年不詳ハアレド身分ノ別ハ右不詳者ニツキテサ
ヘ明カニセラル其計數實際ノ事實ヲ穿テルヤ否ハ兎モ角トシ表ニ顯ハレタル所ハ然リ。明治四一年帝國人口靜態統計第十二表末
尾欄參照）又人ニ其身分ヲ問フハ一般的ニハ無分別トスベカラザルニ似タリ從ヒテ
之ガ調査ニツキテハ格別ノ困難ヲ伴ハザルガ如ク思ハル、モ實際ニアリテハ其
問題一見セル場合ノ如ク單純ナラズ無分別ノ調査トシテ始メヨリ避クベキアリ
第一ニ出生子ニツキ嫡出（本邦ニハ妾腹ノ子ニシテ表面上嫡出タル者モ數カラザルベキモ統計調査上之ヲ問フハ同
ジク無分別ナルベシ）庶子私生ノ別ヲ問フニ拘ハラズ無配偶女中庶子私生子ノ母タル分
子ヲ調査セザルノ弊ヲ舉ゲ之ニ關スル問ヲ設クベシトスルガ如キハ不可ナリ第
二ニ離婚セル人々モ亦此點ニ關スル問ヲ好モシカラズ思フベク、カ、ル氣前ノ影

響ハ調査ノ結果上不正申告ニ基ヅク明白ノ誤謬トナリテ顯ハル乃チ時ニハ有配偶女トシテ報ゼラル、者過多トナリソレニ相應スベキ男數不足スルコト、ナルベク時ニハ又離婚セル男女未婚トシテ答ヘ或ハ沈黙ヲ守リ全問題ヲ回避シ調査ノ結果ヲ紊スコトアルベシ其外有配偶男ニシテ其妻ヲ置去リ(Every issue)ニセル者ハ獨身又ハ未婚トシテ報告スルコト、ナリ易ク私生子ノ母ハ有配偶女トシテ報ジ宿屋ノ主人ハ其寄宿人ガ實際ハ有配偶タルモ其當時分離寄宿セル際ニハ之ヲ未婚トシテ申告シ又ハ全ク其答ヲ避クルガ如キ總テ無知及詐稱ニ基ヅキ調査ヲ困難ナラシムベキ事由ハ人口實查ノ方法ニヨル場合特ニ多カルベシ次ニ又身分關係ニ關スル社會ノ實況ヲ窺フノ目的ヨリセバ有配偶鰥寡離婚ノ現在者ニツキ當該事實ガ初婚再婚又ハ三婚等ニツキ起レルヤヲ問フハ有用ナリ實查ノ方法ニヨル場合ハ兎モ角本邦現行調査法ノ下ニアリテハ都市又ハ一地方統計トシテ之ガ研究ノ見込アルガ如キモ從來カ、ル調査ヲ遂ゲタル者アルヲ聞カズ全國統計ニツキテモ見ルガ如ク婚姻數ニツキ身分別ヲ問フガタメニ幾分カ右ノ缺點ヲ補ヒ得ベキモノアルモ完全トイフベカラズ次ニ又人ノ身分トシテ公ケノ帳簿ニ

記錄セラル、モノ以外世ニハ私事トシテ祕密ノ中ニ葬ラル、男女關係アリ純然タル情夫情婦ノ關係竝ニ結婚ノ豫約(Verlobung)中ニアリ乍ラ事實上ノ夫婦關係ヲ結ベル者アリ風俗上正當ノ手續ヲ踏メリト認ムベキ事實上ノ婚姻關係アルモ婚姻ノ届出ナキガタメニ無配偶タルモノアルノミナラズ社會的ニ多少ノ印象ヲ刻スベキ善妾關係アリ其反面ニ於テ法律ノ形式上有配偶トシテ確認サレツ、處世ノ事實上ニハ別居又ハ置去リニヨリ之ヲ無視シツ、アルモノアリ凡ソ是等ノ關係ハ本邦現在ノ人口調査上之ヲ問フノ見込ナキノミナラズ人口實查ノ方法ニヨリテモ之ニ關スル問ヲ設ケ好成绩ヲ舉ゲ得ベキ見込尠シ而モ亦現今ノ見解ニヨリ婚姻トスベカラザル諸形態男女關係ニツキ之ヲ風習トセル所ニアリテハ之ヲ問フモ侮辱ヲ加フルガ如キコトナキヲ以テ近時ニ至リ之ガ調査ノ實例ヲ見ルコト尠カラズ素ヨリ一夫多婦ノ風習アル所ニ於テ確實ナル統計調査ヲ遂グルハ容易ナラズ第一ニ身分ニ關スル事柄其モノガ幾多ノ組合セトシテ發現スルガタメニ其調査ヲシテ甚ダ複雑ナラシムベキコト第二ニ一夫多婦制行ハル、所ニテハ土民以外ノ他人ニ對シテハ其家多クハ交通禁制ナリ其門ハ調査票ニ對シテモ亦

鎖サル、コトノ二事情ニヨリ調査ヲ困難ナラシメ不確實ノ結果ヲ生ムコトアルベシ其一例トシテ佛國政府ガ一八九六年其殖民地アルジエリト回々教徒ノ閨房ヲ調査セル結果ヲ擧ゲンカ其身分別表ノ示ス所ハ左ノ如シ

未 婚		男		女	
一一夫多婦	一一夫多婦	一、三四四、四四四	一、〇三一、三一五		
一夫多婦	一夫多婦	七五三、六九七	八八一、三五四		
一夫多婦	一夫多婦	一二六、一九二	一一三、四〇〇		
離 寡	離 寡	六七、二三八	四三、九八二		
離 寡	離 寡	三二、三九七			

合 計

二、三二三、九六八

二、〇七〇、〇五一

一 夫 一 婦 ニヨレル夫七五三、六九七アリトナスニヨリ有配偶女八八一、三五四人中七五三、六九七人ハ之ガタメニ盡サルベシト推定セラル然ルニ一 夫 多 婦 ニヨレル夫八一六、一九二人アルニヨリ之ニ配セラルベキ婦女ハ假リニ各夫ガ二 婦ヲ手掛ケオケリトスルモ二五二、三八四人ノ女アルベキ筈ナルニ前表ニヨレバ之ニ配スベキ婦女 *88,197* 乃チ一二七、六五七人殘存スルノミニテ一 夫 平均二 婦 ニモ足ラズ僅カニ一。〇一ノ 婦 人連レ添ハル、コト、ナリ一 夫 多 妻 制ノ反映トシテハ寧ロ滑稽ニ思ハル之ト同様ノ事例ハ其外ニモ亦存スト雖モ茲ニハ單ニ玖馬ポートリニ於ケル一八九九年ノ第一回人口實查ニ際シ人口統計上一新例ヲ開キ未婚、有配偶、離寡以外ニ同意共棲 *Living together by mutual consent* ノ一項ヲ加ヘ其昔(一八四〇及五二年)巴威里ニ於テ有數統計學者 Hermann ガ「婚姻關係ナクシテ共棲セル男女數」 *Die puegnant beisammen lebenden Paare* ナ間ヒ失敗セルノ事實ヲ想起セシムルコトヲ附言スルニ止ム

以上ノ如キ事情アリ從ヒテ又先進國ニ於テモ從來ノ身分別分類格式ニ甘ンゼズ法律上ノ形式ヲ脱却シ實社會ノ真相ニ調査票ノ鋒ヲ突入セシメントスルノ機運ナキニ非ズ現ニ錯遜王國一九〇五年及一九一〇年ノ人口

實查ニアリテハ有配偶者ニシテ別居スルモ未ダ離婚ニ至ラザルモノヲ別居夫婦
Die getrennt Lebenden トシテ調査スルコト、セリ素ヨリ其調査ハ調査ノ當時同國統
計局長トシテ之ヲ主宰セルウユルツブルガー言ヘルガ如ク夫婦ニシテ最早夫婦
暮シヲナサル者悉ク夫婦別居トシテ報告スベキコトハ確實ニ請合ヒ難シ別居
ガ夫婦承諾ノ上ナラデ其一方ノ過失ニヨリテ行ハル、場合悉ク別居ノ事實ヲ告
白スベクモ思ハレズ寧ロ別居ノ報告ハ之ヲ報告セルモノ、間ニ同意アリトノ印
象ヲ惹起セシム蓋シ假令バ夫其妻子ニ對スル義務ヲ果サズ行方不明トナレルガ
如キ場合置去リトナレル妻ハ調査票ニ別居ト記入セズ單ニ有配偶ト記入スル場
合多カルベキヲ以テナリ而モ亦調査票ノ後検査ヲ託セラル、地方官廳及材料整
理ニ當ルベキ中央統計官廳ニ於テ之ガ訂正訂遂グルノ見込ナキヲ以テ右錯遜ノ
調査ニアリテハ別居ノ計數ヲ完全ナラシムルノ目的上夫婦ノ一方常住現在又ハ
常住不在從ヒテ一時不在ニモ非ルモノヲ問ヒテ所帶ノ分離幾何存スルカラ推斷
スルコト、セリ Vgl. Deutsches Statistisches Zentralblatt, 6. Jg. Nr. 4, S. 125

五本邦現存ノ身分別統計ニ就キテ察スルニ全國ノ材料トシテハ人口動態統計

上未婚、有配偶、鰥寡離婚ノ相違ヲ問ヒ之ヲ分類シテ示セルニ係ハラズ靜態調査ニアリテハ粗大ナル分類ニ甘ンジツ、アリ二種ノ調査上精粗不釣合ナルガタメニ計數ノ利用性ヲ殺グコト甚シキヲ感ズルコト最モ切ナルベキハ惟フニ官廳統計ノ主宰者其人ニ存スベク其人ヲシテ今尙此點ニ關スル人口靜態統計ノ改善ヲ斷ゼシメザルニ就キテハ種々ノ事情存スベシト雖モ吾人ハ之ガ斷行ヲ妨グベキ諸事由速カニ撤去セラレ社會研究上ノ有用材料一層豐富トナランコトヲ切望ス少クトモ數府縣又ハ諸大都市ノ統計トシテ一層精微ナル身分別統計材料整理ヲ見シコトヲ切望スル者ナリ。

更ニ之ヲ從來行ハレタル人口實查ニツキテ察スルモ尙熊本市職業調査ノ如キ「妻ニ死別レタル男ヲ鰥」夫ニ死別レタル女ヲ寡トシ（同調査ノ結果ヲ研究サレシ故相原氏ハ此二者ヲ一括シテ裏配偶者トセラル無配偶又ハ獨身ノ文字ト相重ビテ適當ノ用語例ト言フベシ）右二者ニ「該當セザル獨身者ハ獨身トス」トシ未婚者ト離婚者トヲ一括シテ示スガ如キ特例ヲ開ケルモノサヘアリ（熊本市役所刊行「熊本市職業調査」結果九頁及三〇頁以下參照）吾人ハ此一事ヲ見テモ尙地方官公衛統計主任諸君ノミナラズ之ガ指揮監督ノ任ニアル長官各位ガ其豐富ナル學

識否常識ノ一端ヲ割イテ統計ノ改善整頓ニ盡サレンコトヲ希望スルノ念ナキ能ハズ此點ニ付キ材料ハ古シト雖モ著眼高キヲ以テ推スベキハ明治一二年末實査「甲斐國現在人別調」ナリ同報告書ニヨルニ身上ノ有様ヲ調ブル心得中ニ曰ク

一、妻妾共ニアル夫ノ内妻死スルカ或ハ妻ト離縁シテ妾存スル者ハ其桁ニ(妻死夫)又ハ(妻離夫)ト書スベシ。
妾ト離縁シテ妻存スル者ハ其桁ニ(妾死夫)又ハ(妾離夫)ト書スベシ。

一、妻ナクシテ妾ノミアル夫其妾死スルカ又ハ之ヲ離縁スル者ハ其桁ニ(妾死)又ハ(妾離)ト書スベシ。

一、妾ニシテ夫死セシ者又ハ離縁セル者ハ其桁ニ(夫死)又(離縁)ト書スベシ。

別ニ又家主及ビ家族ヲ調ブル心得中ニ曰ク

一、若シ妾アリテ戸籍ニ登記セル者ハ(妾)ト書スベシ。

ト又是等心得書中尙ホ追加及改正セシ箇條中ニ曰ク

一、既ニ夫妻トナルモ婚姻ノ届未ダ済マザルヲ以テ未結トナシテ記シタルハ一々改メテ男ハ夫トナシ女ハ妻トナス。

一、逃亡失踪トアルチ行方知レズト改ム是レ神祕參詣出稼又ハ一家不和等種々ノ情實ヨリ無届他出シテ獨リ所行ノ正シカラザルガ爲メノミニ限ラザルヲ以テナリ。

ト其調査行ハレタルハ一八七九年換言スレバ玖巴ポートリンニ於テ初メテ同意共棲ノ事實ヲ問フノ新例ヲ開キシ以前二〇年ニアリ吾人ハ此事實ヲ輕視スルヲ欲セズ私カニ調査規程立案者ノ識見ヲ敬慕スル者ナルガ兎ニ角其結果トシテ示

サル、所ニ據リ其用語ヲ踏襲シツ、少シク表ノ形式ヲ改メテ示セバ（鯨寡トセル者現
今普通ノ用例ニ反スルモ今之ヲ問ハズ）

未婚

有配偶



冥

知
レ
ズ

身上

行方

息男 ムスコ
息女 ムスメ

夫

妻死
妻離

夫死
夫離

男
女

男
女

九九、〇六八
八五、四六九

八二五
八二

九〇六
五、六

四八二 六四六〇

三三二 二九 一〇五 一〇三

タリ此計數ノ裡面ニ於テ興味アル事實ハ含マルト雖モ計數ノ解釋ハ本編ノ主眼
タラザルヲ以テ今之ヲ不問ニ付シ唯身分別統計表ニ附記セルモノ、中本編ノ目
的上注目スベキモノアルヲ以テ之ヲ引用センカ曰ク夫ノ内行方知レザル者二百
四十人妻ノ内行方知レザル者九十五人アリト之ヲ表中男女ノ各ニ付ベトシテ示
セル數ニ照スニ右二數ハ表中ノ行方知レズ中ニ計入セラレズ從ヒテ夫八二五百
中二四〇人ハ妻子ヲ置去リトセルノ事實ヲ伺ハシム數十年前人口ノ移動少カル
ベシト思ハル、甲斐國ニシテ然リ惟フニ本邦現時ノ社會特ニ大都市ニ於テ同様
ノ調査ヲ遂ゲタリトセバ其割合ハ一層多キヲ明カニシ得ベク識者ノ一考ヲ要ス
ベキ事實ハ明カニセラル、ヲ得ベクコハ國勢調査ノ準備ヲ講ズル者ノ須ラク攻
究スベキ所ナリ又曰ク夫ニシテ妻アリ妾アル者六十九妻ナク妾アル者二十一人

ナリ」ト妾ハ表中何レノ類中ニ計入セルカ妻ノ中ニ算フト推測セラル、節ナキニ非ルモ此點明瞭ナリト言ヒ兼ヌルガ如シ兎ニ角前引用文句ニヨリテ明カナルガ如ク妾ニツキテハ當時ノ戸籍ニ登記セル者ノミヲ調査セルニ過ギザルヲ以テ當時ノ甲州ニ於ケル蓄妾生活ノ反映トシテハ不充分ナルベシト雖モ將來ニ於ケル「國勢調査」少クトモ之ガ附帶調査ノ參考材料タルノ價值ハ等シク認ムベキナリ。

最近ニ行ハレタル臺灣臨時戸口調査ニアリテハ「本島人」(蕃人ヲ除ク)「支那人」トノ種別ヲ別異ノモノトシテ調査スルノ趣旨ヲ明言セルト共ニ身分調査心得中ニ曰ク(前出臺灣統計協會雜誌參照)

配偶者トハ本調査ノ當時妻(内地人ニ在リテハ内縁ノ妻ヲ含マズ本島人及支那人ニ在リテハ招夫及招婿ニ對スル女ヲ含ム)アル男又ハ夫(内地人ニアリテハ内縁ノ夫ヲ含マズ本島人及支那人ニ在リテハ招夫及招婿ヲ含ム)アル女ナリ。

本島人及支那人ニ在リテハ媳婦仔ニシテ未ダ婚姻セザル者及之ニ對スル男ハ未婚者トシ妾及之ニ對スル男ハ配偶者トシ妻及總テノ妾ニ死別レタル男ハ鰥トシ男ニ死別レタル妾ハ寡トシ妻及總テノ妾ニ生別レタル男又ハ男ニ生別レタル妾ハ離婚者トス。

ト其分類ハ割合ニ緻密ナリ調査比較的確實ニ行ハレナバ其結果トシテ甚ダ有益ナル研究材料ヲ授ケ得ベシ吾人ハ身分統計調査ノ一端ニ付以上簡單ナル敍說評論ヲ試ミタルニ過ギズ其外此調査竝ニ其結果ノ利用上議スベキ點ハ多シト雖モ

總テ之ヲ後日ニ讓ルト共ニ特ニ臺灣ノ調査例ヲ最後ニ引キ來リ同地統計事務ノ當路者ガ此材料ノ處理製表ニ成功セラレンコトヲ希望スル者ナリ。